

民主化闘争情報

No. 808
2011年1月13日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR連合は1月6日に都内で2011年賀詞交歓会を開催し、各界からのご来賓と単組代表者ら約270名が出席、新年を祝い、組織の飛躍への決意を固め合った。2011年を民主化闘争の「大躍進の年」と位置づけ、勝利にむけて総力を挙げる方針だ。

民主化闘争「大躍進の年」を宣言！ 2011年賀詞交歓会で決意を固め合う

都内「アジュール竹芝」で開催した賀詞交歓会には、来賓として、労働界より連合・南雲事務局長、交運労協・渡辺議長ら、政府より高木義明文部科学大臣、伴野豊外務副大臣、政党より民主党・山根隆治企業団体対策委員長、社民党・福島みずほ党首、国会議員懇談会から松野頼久衆議院議員（会長）、榛葉賀津也参議院議員（副会長）、三日月大造衆議院議員（事務局長）の三役議員、JR各社から経営幹部が出席し、それぞれ挨拶をいただいた。

JR連合坪井会長は、安全の確立、鉄道・運輸機構の利益剰余金問題など政策要求の実現、来るべき2011春季生活闘争の勝利などの課題に対して、JRの代表産別としての役割と責任を果たす決意を述べた。さらに、「民主化闘争はまさに最大のヤマ場を迎えている。昨年1月には、浦和電車区事件の被害者である吉田光晴さんが8年ぶりにJR東日本への復職を果たした。一方、事件の刑事裁判は最高裁に舞台を移しているが、近く上告が棄却されることは必至である。まさに、JR総連の反弾圧の闘いが断罪される日は間近である。来年2012年にはJR発足25年を迎える。その節目の年にむけ、今こそ国鉄改革の残滓である革マル派を一掃し、JR連合への総結集にむけた大躍進の闘いの年として本年を位置づけ頑張っていこう」と力強く訴えた。



民主化闘争共闘の呼び掛けに国労・高橋委員長が連帯挨拶！

また、昨年に続き国労より高橋委員長が出席、坪井会長は民主化闘争の大躍進にむけた共闘を呼び掛けた。これに対して高橋委員長は、「国労は、今まで以上にJR連合と共通する課題で連携を深めて歩んでいきたい」とする連帯の挨拶を行った。

ところで、国労の組織課題である「JR不採用問題」は、昨年6月28日に最高裁において和解が成立し、解決金が支払われた一方で、国労は組合員約200名の雇用をJR各社に求めている。仄聞するところによると、昨年12月3日、JR総連組織内の田城郁参議院議員は東労組副委員長を連れだって、わざわざ民主党の同問題の窓口である郡司彰参議院議員を訪れ、JRへの雇用問題を進めることに横槍を入れる要望を行ったという。郡司議員も厚顔無恥な要望にさぞかし呆れたことだろう。既報の通り、JR不採用問題は昨年の政治決着で終結しており、JRへの雇用は、各社の判断に委ねられている問題だ。JR東日本が田城議員に要請したとは到底思えない。彼らが否定していたはずの「政治介入」を行ってさえも、JRへの雇用を阻止しようとする東労組は、会社の姿勢をまったく信用できないのであろう。信頼関係の微塵もない彼らの労使関係は、もはや末期的症状にあるとみてよいのではないか。

今こそ、非常識組合＝JR総連を一日も早く淘汰し、JR労働運動の大同団結を果たすことが求められている。

JR25年の節目にむけ、民主化「大躍進の年」に不退転の決意で闘おう！